

諸宗教対話委員会

第3回 諸宗教シンポジウム

新型コロナウイルスと宗教の智慧

3月12日(土) 17時15分、教区本部事務局の会議室で諸宗教シンポジウムが開催された。コロナ禍により2度にわたる開催延期の末、今回実施となった。カトリック信者はもちろん、他教派の信者、他宗教の方々も含め、45人ほどが参加。大司教の前田万葉枢機卿と酒井俊弘補佐司教も出席した。

当委員会の5年前の活動開始以来、今回で3回目のシンポジウムとなった。コロナ禍で通常の活動が何度か中断されたが、このシンポジウムは諸宗教対話委員会の活動のなかで重要な位置づけにあるので、開催できたのは感慨深かった。

「シンポジウム」はギリシャ語で「友人との食事の席で、リラックスした雰囲気の中で重要なテーマについて話し合う」という意味をもつ。友人でありながら、反対意見を共有することは可能だ。このシンポジウムの目的は、共に真理を求め、

共に知性と霊性を深め、共に成長していくこと。これこそが、諸宗教対話の目的だといえる。

今回のテーマは「新型コロナウイルスと宗教の智慧」。前田大司教の挨拶、委員長の前田大司教の挨拶、委員長の導入の言葉に続き、角田泰隆住職(長野県伊那市曹洞宗常圓寺)、板井正齊氏(皇學館大学)、酒井陽介神父(イエズス会)が仏教・神道・キリスト教それぞれの観点から講演を行った。その後、質疑応答の時間をもち、最後に酒井司教が閉会の挨拶を述べた。



会場の中央に立つシンポジウムの講師3人(左から板井氏、角田住職、酒井神父)

本テーマは、コロナ禍と

いう目の前にある現実と、第二バチカン公会議の諸宗教対話に関する文書『キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度について

の宣言(フストラ・エターテ、1965年)』の考え方にヒントを得て設定された。カトリック教会によれば、「人間の条件の秘められた謎は昔も今も人間の心を奥深く揺さぶるものであるが、人々はこの謎についてさまざまな宗教に答えを願求している。たとえ

ば、人間とは何か、われわれの人生の意義と目的は何か……」(※第1項)。そのため、それぞれの宗教にはある程度の価値があるのである。

この2年間、コロナ・パンデミックは社会・文化に

関係なく、すべての人に影響を及ぼし、人間の限界について、また人間性について深く考えさせる機会を人に与えた。宗教には、特に

困難のなかで、人びとの思考と人生を鼓舞し導く力と知恵がある。このシンポジウムは、異なる信仰を持つ人びとが互いの宗教の知恵を知る機会として企画された。

(諸宗教対話委員会委員長 ロッコ・ビビアーノ神父)



仙台教区 ガクタン・エドガル司教より 大阪教区の皆さんへ

3月19日(土・聖ヨセフの祭日) 10時半、仙台司教区司教座聖堂で、ガクタン・エドガル師(淳心会)の司教叙階式が行われた。大阪教区に深いゆかりのあるエドガル新司教からのメッセージを届ける。

司教叙階式の参列者の人数を制限せざるを得なかったことを大変心苦しく思っていました。多くの方々が動画配信などを通して心を合わせてお祈りくださったことを嬉しく思います。

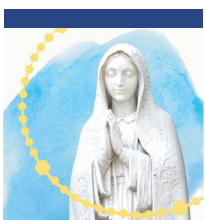
以前、仙台教区に派遣された時、車でよく県をまたがって移動していました。司教叙階後、さっそく長距離運転を再開しました。今思えば、あの派遣は予行演習のようでした。

仙台教区民にも申し上げましたが、まず各小教区を訪問し、信徒の皆様とお会いして、お話を耳を傾けたいと思います。今はシノドス(世界代表司教会議)との関連もありますし、いろいろな方のご意見を伺い、腰をすえて教区の優先課題を識別していきたいと思います。

大阪は、わたしの日本の故郷です。自分では話せませんが「大阪弁」はわたしの耳には聴きとりやすい言葉です。思い出が多いので、ご紹介するためにどれかひとつに絞るのは難しいです。来日して、金剛・たかとり・堺教会でそれぞれ一年過ごしました。日本での生活の基礎はこの3教会で作られました。大阪で働いている司祭・シスターたちの月修や年毎の研修会は充実していました。テーマはいつも興味深かったし、親睦会も楽しかったです。

大阪教区の皆様、神様のご計画は計り知れませんが、この司教任命は大阪教区と関係があると強く感じています。大阪教区が阪神淡路大震災後に取り組んだ「新生計画」は東日本大震災の際、仙台教区にまで及んだからです。いつもお祈りを通して、わたしを支えてください。よろしくお願いします。

エドガル司教様、ありがとうございました!



ロシアとウクライナの情勢に心をよせて 聖母によりたのんで祈る

教皇フランシスコは3月25日(金)の神のお告げの祭日にローマのサン・ピエ

トロ大聖堂で、ロシアとウクライナを聖母の汚れなきみ心に奉献した。

心をあわせて祈ってほしいという教皇の全世界の司教への呼びかけに応え、大阪教区では同日、日本時間

正午に祈りの集いをライブ配信。大阪カテドラル聖マリア大聖堂で、前田万葉大司教と酒井俊弘補佐司教はウクライナのためにロザリオを一連ずつ唱えた後、両

国の聖母への奉献を行った。

「マリアの汚れなきみ心への奉献」は1917年ポルトガルのファティマに出現した聖母の要請に由来する。世界平和と人びとの回心のために、歴代教皇はこれまで聖母への世界の奉献を重ねてきた。

大阪教区は2019年6月16日、「教区再宣教」150周年記念の際に教区を聖母に奉献している。

● 泉南教会からの ニュース ●

3月13日(日)、ウクライナとロシアの人びとの平和を願い、日曜学校の子どもたちはマリア様にロザリオの祈りをささげました。

中学生リーダーが大きなロザリオで先あげ(先唱)をして、子どもたちがそれに続けました。子どもたちは自分で作ったビーズのミニロザリオを繰りました。そして、ハトをかたどったカードに平和への願いを書

いて、惨状を伝える記事の周りに貼りました。

(泉南教会 信徒)

